

## ハスケル夫人著『主婦百科』の特質の解明

——C. E. Beecherの著作との比較を中心に——

○谷口 彩子\*, 亀高 京子\*\* (\*熊本大, \*\*元東京家政学院大)

目的 これまでに筆者らは、明治初期の翻訳家政書のなかで特に著名な永峯秀樹訳『経済小学 家政要旨』(明治9年刊)の原典解明と、原書と訳書との比較、その家政理念や内容の受容過程について研究を行ってきた。本研究では、その原典ハスケル夫人著『主婦百科』(1861)のわが国への導入過程に関する研究の一環として、同書の特質の解明を行う。

方法 ハスケル夫人著『主婦百科』とアメリカ家政学成立史において著名なビーチャーの著作との比較を行う。主な資料：Mrs. E. F. Haskell's "The Housekeeper's Encyclopedia," (1861), C. E. Beecher's "A Treatise on Domestic Economy," (1841), "Domestic Receipt Book," (1850年版), "The Principles of Domestic Science," (1870)。

結果 『主婦百科』とビーチャーの著作とでは、若い家政担当者が直面する家政遂行上の困難性や健康上の問題が執筆動機となっており、そうした問題解決のために科学的方法を積極的に導入しようとして試みた点で共通している。しかし両者の読者対象や執筆目的などが異なり、執筆者の立脚する宗教的基盤や依拠する科学領域の相違などから両者の内容構成、特に科学知識の採用量で違いがみられた。また、ビーチャーは、家政は女性の天職であり、女子高等教育に家政教育を取り入れることで問題解決を図ろうと試みたのに対し、ハスケルは、女性の家政遂行上不可欠な夫の協力に触れ、男性の役割に着目した。